

地域内フィーダー系統確保維持事業

一次評価資料

令和 8 年 1 月

飯能市地域公共交通対策協議会

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月30日

協議会名: 飯能市地域公共交通対策協議会
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

| ①運行事業者 | ②事業概要 | ③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況 | ④事業実施の適切性 | ⑤目標・効果達成状況 | ⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む) |
|------------|---|--|---------------------------------|---|---|
| 西武ハイヤー株式会社 | 飯能市乗合ワゴン「おでかけむーま号」(精明・加治地区) 系統:3系統(精明東系統・精明西系統・加治系統) 運行日:月・水・金 運賃:一律200円 車両:10人乗りワゴン(定員9人) | 今後利用者となりうる住民等を利用につなぐ取組として、市内転入者に向けて公共交通マップを配付し、当事業及び公共交通全体の利用促進を行った。この結果、区画整理事業の進捗により運行経路の周辺人口が増加傾向にある加治系統の利用者数が昨年より延びている。また、運行地域周辺住民に向けて利用状況を毎月示すことで、目標と達成度を自分事化できる仕組みを作っている。 | A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 | C 目標① 1便当たり平均利用者数(全系統合計) 目標値 5人以上 実績値 4.41人【未達】 目標② 収支率(経常経費に対する経常収入の割合) 目標値 20%以上 実績値 14.42%【未達】 目標達成には至らないものの、前年値①4.00人、②13.42%と比較すると達成に近づいており、本格運行開始から3年経過したことで地域に浸透し、住民にとって必要不可欠な移動手段となっている。 | 目標値については①②どちらも未達となったが、利用者数は増加傾向にあるため、引き続き新規利用者の取り込みを行う。収支率については燃料費等の高騰により経常費用が増大し、運賃収入を増やすだけでは達成が難しいため、広告収入等の収入確保により目標達成を目指すとともに、次期計画策定時の目標についても検討していく。 |
| 国際興業株式会社 | 飯能市乗合ワゴン「おでかけむーま号」(原市場地区) 系統:①飯能駅便(2系統)・②原市場地区行政センター便(2系統)・③新寺便(2系統) 運行日: ①③毎日、②月・水・金 運賃: ①対キロ運賃、②一律300円、③一律100円 車両: ①大型バス、②③14人乗りワゴン(定員12人) | 本格運行開始から1年間の利用状況や利用者の要望等を反映し、10月1日より増便及び時刻の変更を伴う運行内容の変更を行った。また、一部のスクールバスを乗合ワゴンと統合して運行し、市内公共交通網との調整を図りながら利便性の向上を目指した。 | A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 | C 目標 1便当たりの利用者数 目標値 4人以上(片道) 実績値 3.51人【未達】 依然として通勤・通学の需要が高く、朝は定員の多い大型バスでの運行が必須となっているものの、夕方以降は家族等による自家用車での迎えにより、下りの利用者が減っていると考えられる。運行内容変更により利用者数は増えているため、1便当たりの実績が下がってしまった。 | 利便性の向上を目的として運行回数を増やしたが、利用者の少ない時間帯があることを踏まえ、今後も利用状況や利用者の意見を反映し、より地域の実情にあった運行をしていく。 |
| | 飯能市乗合ワゴン「おでかけむーま号」(南高麗地区) 系統:①小学校便・②南高麗地区行政センター便(2系統) 運行日:①月～金、②月・水・金 運賃:一律300円 車両:14人乗りワゴン(定員12人) | 本格運行開始から1年間の利用状況や利用者の要望等を反映し、10月1日より時刻の変更を伴う運行内容の変更を行った。また、地区内の介護保険施設と協力し、週に1回乗合ワゴンの空白時間帯に無償で移送サービスを提供し、より移動しやすい交通体系を整備している。 | A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 | C 目標 1便当たりの利用者数 目標値 3.5人以上(片道) 実績値 3.10人【未達】 目標の達成には至らないものの、前年値2.74人と比較すると利用者が増加しており、運行内容の変更が影響したと考えられる。スクールバスの役割を兼ねていることから一定数利用は見込まれるものの、地域住民に向けた利用促進策に取組む必要がある。 | 地区内に若い世代の転入が見られることから、新規利用者の獲得に向けた施策を検討する。 |

事業実施と地域公共交通計画との関連について

令和8年1月30日

| | |
|-----------------------------|--|
| 協議会名： | 飯能市地域公共交通対策協議会 |
| 評価対象事業名： | 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金 |
| 地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性) | <p>【基本方針】 暮らしを支える地域公共交通の実現を目指して ～市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」公共交通～</p> <p>【地域内フィーダー系統の維持確保の必要性】</p> <p>①精明、加治地区 公共交通が不十分である精明地区及び加治地区において令和3年3月から「飯能市乗合ワゴン」の実証運行を開始しました。当ワゴンは、市内拠点である東飯能駅と各地区を結ぶ移動手段として、その運行内容を地域住民と共に検討し、導入に至りました。主に、運転免許を持たない高齢者等が買い物、通院等の日常の移動手段として利用しており、今後も地域の主要な移動手段として維持・確保していく必要があります。 このため、地域公共交通確保維持事業により、飯能市乗合ワゴンの各路線(精明西・精明東・加治系統)を確保維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要です。</p> <p>②原市場(中藤・中沢)地区、南高麗地区 原市場(中藤・中沢)地区、南高麗地区にはそれぞれ国際興業バス中藤・中沢線、間野黒指線が運行していましたが、人口減少により利用者が極めて少ない状況であったことから、地域旅客運送サービス継続事業を活用して再編を実施しました。運行内容については地域住民と検討し、令和4年9月から新しい形態での実証運行を開始し、令和5年9月から本格運行に移行しました。当該地区は山間地域であり、各地域拠点までの移動手段として、今後も沿線住民の通勤・通学や高齢者等の買い物、通院等の日常的な移動を叶えていく必要があります。 本格運行移行後も利用状況から見える課題について検証した上で、見直しを行いながら、地域公共交通確保維持事業を活用し、各路線を維持・確保していきます。</p> |

令和7年度 飯能市地域公共交通活性化協議会（埼玉県飯能市） （地域内フィーダー系統確保維持事業）

地域の公共交通等の現況・課題／補助対象系統の位置付け

鉄道駅は飯能駅、東飯能駅などが立地しており、首都圏との交通結節点の役割を担っている。バス路線は、鉄道駅を起点に放射状に形成され、市内外の移動の役割を担っている。また、一部地域では交通空白地の解消やバス路線再編のため、地域、事業者と連携してコミュニティバスを運行している。このほか、交通空白地自家用有償旅客運送、介護保険施設との連携による移送サービスの提供など地域資源を活用した移動手段の確保も進んでおり、公共交通の補完として重要な役割を担っている。コミュニティバスの運行にはフィーダー補助を活用しており、精明・加治地区では、主に免許を持たない高齢者のおでかけの足の確保を目的に、原市場・南高麗地区は通勤・通学の利用を目的として運行している。広い市域を有しながらも人口減少や高齢化が進んでいく中で、路線の維持・確保をしていくことが課題となっている。

補助対象系統の需要・現況・課題／活用したデータ

○**精明・加治系統**：駅で鉄道、幹線に接続しており、地域と検討を重ねて現在の運行形態となっている。運行開始から3年で地域に馴染んできており、一部地区では人口減少による利用者減少が見られるものの需要は高い状況であり、人口増加の地域では更なる需要増加が見込まれる。増便や、他地区での運行を望む声もあるが、経常費用の増加により収支率が伸び悩む中で、利便性の向上を図っていくことが課題となっている。

○**原市場・南高麗系統**：従前の運行事業者から利用者減少による路線廃止の申出があった経緯もあり、人口減少が進む地域を運行しているが、通勤・通学の利用者は依然として多く、事業者からの利用状況の報告や乗込調査による意見聴取により、利便性の向上と運行の最適化を図りながら路線を維持していく必要がある。

定量的な目標

目標指標：実車走行距離あたり利用者数（市内全路線）、実車走行距離あたり利用者数（地域幹線）
将来（10年後）の外出に不安を感じる人の割合、路線バスを1年間1回以上利用した割合
飯能市乗合ワゴン（精明地区・加治地区）の収支率、公共交通利便地域の人口割合

目標を達成するために行う事業の今年度実施状況／来年度に向けた取組の検討

○**精明・加治系統**：道路状況の変化に伴い、地域から要望のあった拠点への停留所の設置及び経路変更を行い、利用者増加につなげた。引き続き道路状況の変化に応じて停留所の移設等、利用者の意見を取り入れながら見直しを行う。
○**原市場・南高麗系統**：利用者からの要望の反映及び、より効率的な運行の実現のため、運行内容の変更を行った。変更による利用状況の変化について研究を行い、今後も利便性の向上と運行の効率化を図る。

アピールポイント

○バス路線の維持（公共交通ネットワークの維持）

通勤・通学及び、観光施設への移動手段として欠かせないバス路線（日高・飯能路線）について、赤字計上や運転士不足を背景として事業者より廃止の申出があったが、市民への影響を最小限に抑えるよう事業者と協議をし、運行経費を補助することで新たに「飯能駅・宮沢路線」として運行を開始した。

○国際興業バスまつりの開催

国際興業と共催でコミュニティバスの車両展示、バスの利用促進に関わるイベントを実施した。（参加者：1,743人）

一部山村
指定



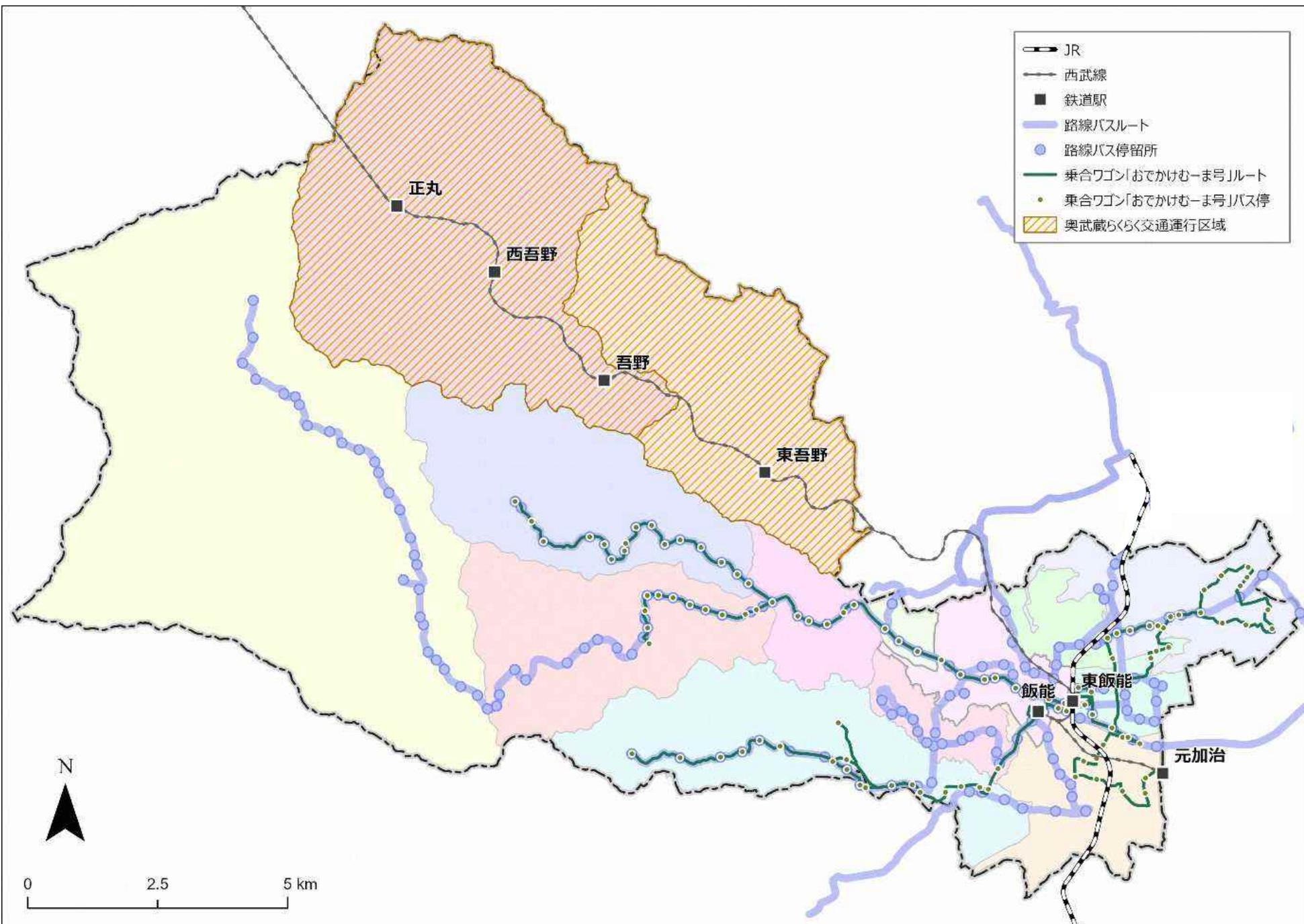
| | |
|--------------|-----------------------|
| 面積 | 193.05km ² |
| 人口（R7.4.1時点） | 77,730人 |
| 15歳未満 | 9,239人 |
| 65歳以上 | 25,534人 |
| 高齢化率 | 32.85% |

交通計画の計画期間

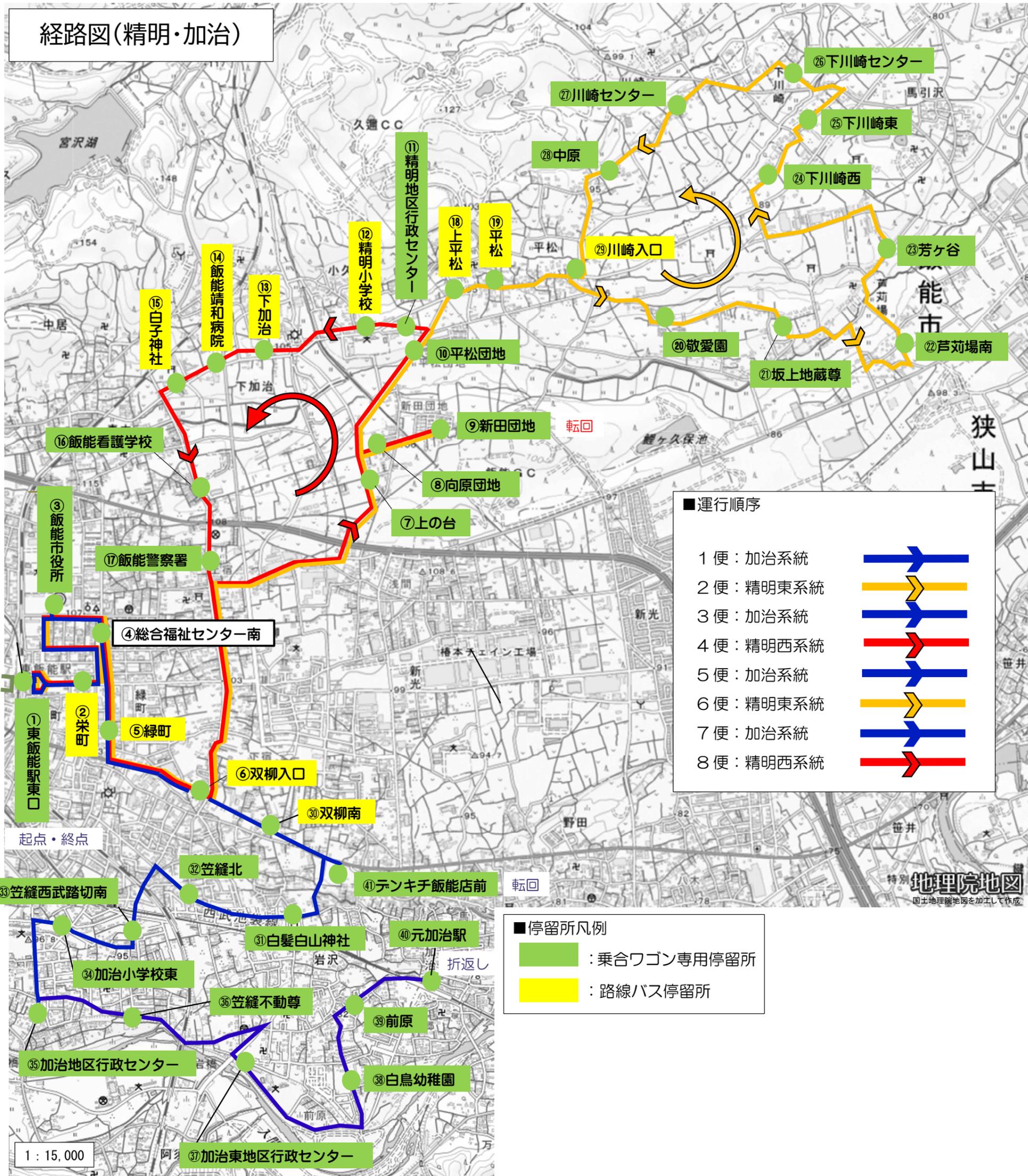
令和5年4月～令和10年3月

協議会開催状況

- ・第30回（令和6年10月28日）
地域公共交通の確保について ほか
- ・第31回（令和7年1月書面開催）
地域内フィーダー系統確保維持事業に係る一次評価について
- ・第32回（令和7年3月27日）
令和7年度国庫補助制度に係る計画変更申請（案）について ほか
- ・第33回（令和7年6月23日）
国庫補助制度に係る計画認定申請について ほか



経路図(精明・加治)



■ 運行順序

| | |
|-----------|--|
| 1 便：加治系統 | |
| 2 便：精明東系統 | |
| 3 便：加治系統 | |
| 4 便：精明西系統 | |
| 5 便：加治系統 | |
| 6 便：精明東系統 | |
| 7 便：加治系統 | |
| 8 便：精明西系統 | |

■ 停留所凡例

| | |
|--|------------|
| | 乗合ワゴン専用停留所 |
| | 路線バス停留所 |

■ フリー降車制度
乗車は停留所で行い、降車は運行ルート内の希望の場所のできる「フリー降車制度」を採用する。ただし、以下の場所は適用外とする。

- 国道299号上
- 法定の駐停車禁止場所
- その他、他の車両の通行を妨げるような狭あいな場所、カーブなどの見通しの悪い場所、傾斜や路面に段差のある場所

1 : 15,000

特別 地理院地図
国土地理院地図を加工して作成

飯能市乗合ワゴン（精明地区・加治地区）運行実績 令和7事業年度



1 運行実績概要

- (1) 運行期間 令和6年10月1日～令和7年9月30日
- (2) 運行日数 145日（月・水・金運行 ※祝日、12/29～1/3は運休）
- (3) 運行回数 1,160便（精明東290便、精明西290便、加治580便）

2 利用実績

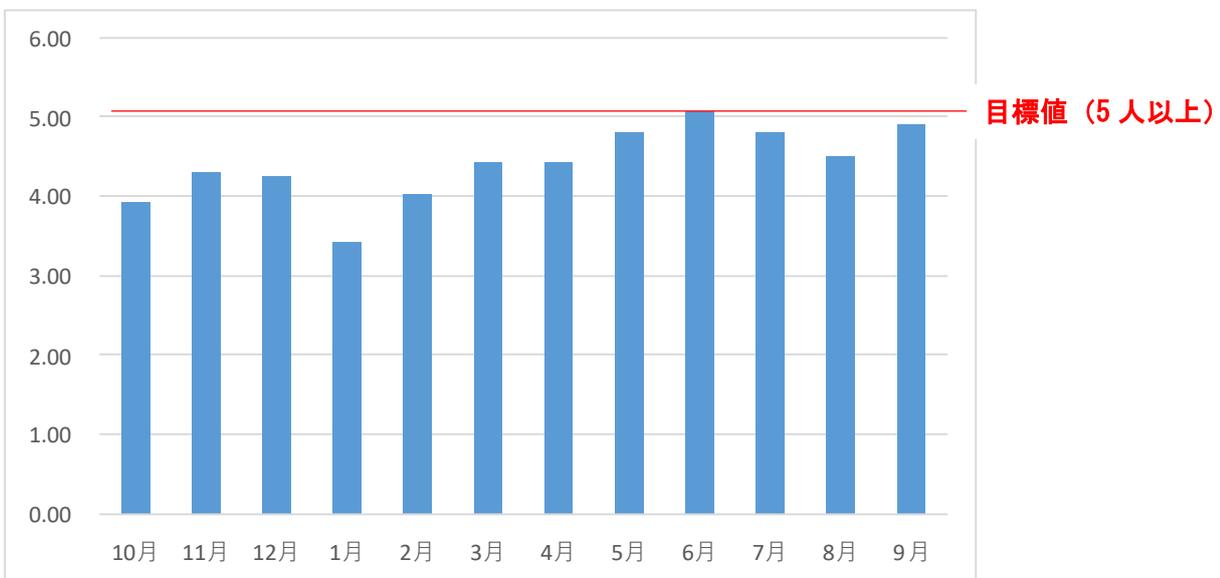
(1) 系統別

| 指標 | 精明東 | 精明西 | 加治 | 合計 |
|--------------------|-------|-------|-------|--------|
| 1 実車走行キロ (km) | 5,336 | 3,248 | 9,570 | 18,154 |
| 2 運行回数 (便) | 290 | 290 | 580 | 1,160 |
| 3 輸送人員 (人) | 1,527 | 1,134 | 2,459 | 5,120 |
| 4 1便あたりの利用者数 (人/便) | 5.26 | 3.91 | 4.23 | 4.41 |

(2) 便別

| 便目 系統 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|--------------------|------|------|-------|------|------|------|------|------|
| | 加治 | 精明東 | 加治 | 精明西 | 加治 | 精明東 | 加治 | 精明西 |
| 1 運行回数 (便) | 145 | 145 | 145 | 145 | 145 | 145 | 145 | 145 |
| 2 輸送人員 (人) | 395 | 969 | 1,005 | 794 | 664 | 558 | 395 | 340 |
| 3 1便あたりの利用者数 (人/便) | 2.72 | 6.68 | 6.93 | 5.48 | 4.58 | 3.85 | 2.72 | 2.34 |

(3) 月別の1便あたりの利用者数 (人/便)



3 収支実績

(1) 運行経費、運行収入、欠損額

| | | |
|---------|---------|-------------|
| ①運行経費 | | 5,943,982 円 |
| ②運行収入 | | 856,999 円 |
| ③欠損額 | | 5,086,983 円 |
| 欠損額負担内訳 | (市) | 2,543,983 円 |
| | (国庫申請額) | 2,543,000 円 |

(2) 収支率 : 14.42% (目標値 20%以上)

(3) 国庫補助金の申請状況

地域内フィーダー系統確保維持補助金

- ・ 令和7年度事業 (R6.10.1~R7.9.30) 計画認定済み、交付申請済 (審査中)
- ・ 令和8年度事業 (R7.10.1~R8.9.30) 計画認定済み

4 その他の取組

(1) 道路開通による、より利便性の高い経路への変更

道路の開通に伴い、経路の変更及び地域から要望が多かった拠点に停留所を新設し、利便性の向上を図った。

(2) 公共交通マップ等による情報発信

市内の路線バス等を迷わず利用できるよう作成する「飯能市公共交通マップ」内に乗合ワゴンの路線、乗り方等を掲載し、利用周知を行った。また、運行概要、時刻表等を掲載したパンフレットを新たに作成し、配布している。



△パンフレット

(3) 空白時間を補完する移送サービスの運行

運行地域内の社会福祉法人と連携し、週1回1便の移送サービスの実証運行を継続実施している。精明東便の同経路を運行経路とし、乗合ワゴンの精明西便と乗換えて市街地方面との移動を可能にすることで、精明東便の空白時間を補完している。



△社会福祉法人による移送サービス(無料)

5 今後の課題

- (1) 広告掲載制度を活用した運賃収入以外の収入源の確保
- (2) キャッシュレス決済の導入の検討
- (3) 運行経路上の道路環境の変化への対応

経路図(原市場)



■フリー乗降区間

中沢～新寺

※以下の区間、場所は適用外です。

- ・飯能駅系統全線
- ・新寺～原市場地区行政センター間
- ・法定の駐停車禁止場所
- ・その他、他の車両の通行を妨げるような狭い場所、カーブなどの見通しの悪い場所、傾斜や路面に段差のある場所

飯能市乗合ワゴン（原市場地区）運行実績 令和7事業年度



1 運行実績概要

(1) 運行期間 令和6年10月1日～令和7年9月30日

(2) 運行日数 ・飯能駅系統、新寺系統 364日（毎日）
・原市場地区行政センター系統 143日（月水金）

※旧盆期間、12/30～1/3（元日は運休）は土休日ダイヤで運行

※飯04は旧盆期間、12/30は土休日ダイヤで運行、12/31～1/3（元日は運休）は特別ダイヤで運行

2 利用実績

(1) 系統別

| 指標 | 飯能駅系統 | 原市場地区行政センター系統 | 新寺系統 | 合計 |
|--------------------|----------|---------------|--------|-------------|
| 1 実車走行キロ (km) | 30,353.7 | 8,265.4 | 23,480 | 62,099.1 |
| 2 運行回数 (回) | 1022.5 | 429 | 1,934 | 3,385.5 |
| 3 輸送人員 (人) | 16,483 | 2,435 | 4,880 | 23,798 |
| 4 1便当たりの利用者数 (人/便) | 8.06 | 2.84 | 1.26 | 3.51 |

(2) 便別・1便当たりの利用者数

| 便目 | 系統 | 平日 | | 土休日 | |
|----|---------------|-------|-----------|-------|-----------|
| | | 発時刻 | 1便当たり利用者数 | 発時刻 | 1便当たり利用者数 |
| 上り | 飯能駅系統 | 6:20 | ※ 11.78 | 7:00 | ※ 8.45 |
| | | 7:00 | | | |
| | | 7:37 | | | |
| | | 8:40 | | | |
| | 原市場地区行政センター系統 | 10:00 | 3.87 | | |
| | | 10:54 | 3.25 | | |
| | | 12:14 | 0.48 | | |
| | 新寺系統 | 17:51 | 0.21 | 17:15 | 1.27 |
| | | 18:21 | 1.08 | 17:56 | 0.48 |
| | | 19:57 | 0.07 | 18:43 | 0.06 |
| | | 19:30 | 0.52 | 19:32 | 0.03 |
| | | 19:55 | 0.01 | | |
| | | 20:25 | 0.09 | | |

| | 便目 | 系統 | 平日 | | 土休日 | |
|----|------|---------------|-------|-----------|-------|-----------|
| | | | 発時刻 | 1便あたり利用者数 | 発時刻 | 1便あたり利用者数 |
| 下り | 1 | 飯能駅系統 | 6:24 | ※ 4.12 | 8:20 | 5.73 |
| | 2 | 飯能駅系統 | 14:46 | | | |
| | 3 | 飯能駅系統 | 7:07 | | | |
| | 3 | 原市場地区行政センター系統 | 10:25 | 0.77 | | |
| | 4 | 原市場地区行政センター系統 | 11:40 | 5.57 | | |
| | 5 | 原市場地区行政センター系統 | 12:40 | 3.20 | | |
| | 6 | 新寺系統 | 17:38 | 3.17 | 17:04 | 1.83 |
| | 7 | 新寺系統 | 18:09 | 0.21 | 17:37 | 1.31 |
| | 8 | 新寺系統 | 18:38 | 2.86 | 18:17 | 1.24 |
| | 9 | 新寺系統 | 19:18 | 3.28 | 19:15 | 2.15 |
| | 10 | 新寺系統 | 19:44 | 1.63 | | |
| 11 | 新寺系統 | 20:08 | 1.64 | | | |

3 国庫補助金の申請状況

(1) 地域内フィーダー系統確保維持補助金

- ・令和7年度事業（R6.10.1～R7.9.30） 計画認定済み、交付申請済（審査中）
- ・令和7年度事業（R7.10.1～R8.9.30） 計画認定済み

(2) 地域旅客運送サービス継続実施計画 計画認定済み

- ・期間 令和5年9月1日～令和9年3月31日

4 その他の取組

(1) 実績や意見を基に運行内容を変更

利用状況や乗込調査の結果及び利用者や地域の方からの意見を踏まえ、令和6年10月1日から運行内容を見直し、増便及び時刻の変更を行った。

(2) GTFS データリポジトリヘデータの登録・公開

前年に引き続きGTFSデータを公開したことで、新たな路線検索サイトに時刻表等が掲載され、市のホームページ以外でも経路や時刻の検索が可能となった。

(3) 乗り換え環境の整備

運行事業者と協力し、乗換えポイントのバス停に番号表示及び乗換え案内の掲示をした。また、安全な乗換え時間確保のため、路線バスの時刻を乗合ワゴンに合わせて変更した。

(4) 車両への広告掲載制度の創設

運賃以外の収入源確保のため、広告掲載制度を創設し、乗合ワゴン車両に広告ラッピングをした。

▽広告ラッピングをした乗合ワゴン



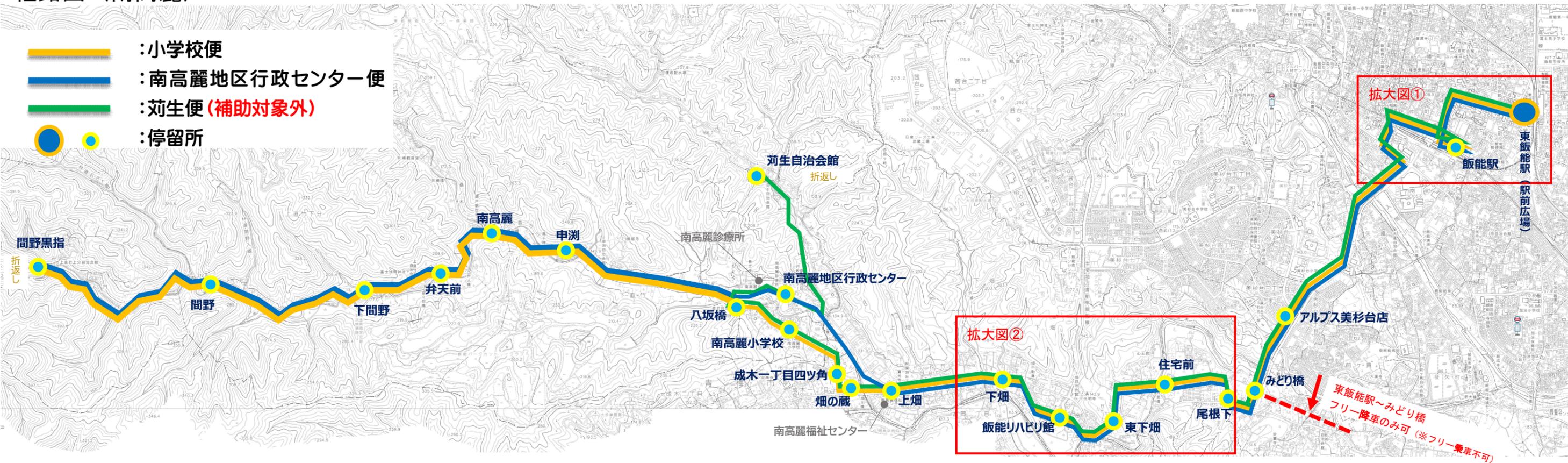
5 今後の課題

(1) 車両への広告掲載による収入源の確保

(2) 沿線人口が減少する中で、観光利用等の新たな利用者の確保策の検討

経路図 (南高麗)

-  : 小学校便
-  : 南高麗地区行政センター便
-  : 苺生便 (補助対象外)
-  : 停留所



■フリー乗降制度
間野黒指・苺生自治会館 ~ みどり橋
 ※以下の区間、場所は適用外です。

- ・東飯能駅(駅前広場)～みどり橋(※フリー降車のみできます)
- ・法定の駐停車禁止場所
- ・その他、他の車両の通行を妨げるような狭い場所、カーブなどの見通しの悪い場所、傾斜や路面に段差のある場所

飯能市乗合ワゴン（南高麗地区）運行実績 令和7事業年度



1 運行実績概要

- (1) 運行期間 令和6年10月1日～令和7年9月30日
- (2) 運行日数 ・小学校系統 245日（月～金運行）
 ・南高麗地区行政センター系統 146日（月水金運行）
 ※土休日、1/1～1/3は運休

2 利用実績

(1) 系統別

| 指標 | 小学校系統 | 南高麗地区行政センター系統 | 合計 |
|--------------------|----------|---------------|----------|
| 1 実車走行キロ (km) | 19,036.5 | 5,664.8 | 24,701.3 |
| 2 運行回数 (回) | 857.5 | 292 | 1,149.5 |
| 3 輸送人員 (人) | 5,919 | 1,216 | 7,135 |
| 4 1便当たりの利用者数 (人/便) | 3.45 | 2.08 | 3.10 |

(2) 便別・1便当たりの利用者数

| 便目 | 系統 | 発時刻 | 1便当たりの利用者数 |
|----|-----------------|-------|--------------|
| 上り | 1 小学校系統 | 7:40 | 6.90 |
| | 2 小学校系統 | 8:50 | 3.99 |
| | 3 苅生系統 | 9:58 | 3.55 (補助対象外) |
| | 4 南高麗地区行政センター系統 | 11:28 | 1.75 |
| | 5 南高麗地区行政センター系統 | 12:30 | 1.68 |
| | 6 苅生系統 | 13:30 | 2.95 (補助対象外) |
| | 7 小学校系統 | 14:53 | 2.09 |
| | 8 小学校系統 | 16:06 | 2.64 |

| | 便目 | 系統 | 発時刻 | 1 便当たりの利用者数 |
|----|----|--------------|-------|--------------|
| 下り | 1 | 小学校便 | 8:15 | 2.57 |
| | 2 | 苺生便 | 9:27 | 1.87 (補助対象外) |
| | 3 | 南高麗地区行政センター便 | 10:54 | 0.69 |
| | 4 | 南高麗地区行政センター便 | 12:02 | 3.03 |
| | 5 | 苺生便 | 13:00 | 2.35 (補助対象外) |
| | 6 | 小学校便 | 14:18 | 3.31 |
| | 7 | 小学校便 | 15:28 | 2.67 |

3 国庫補助金の申請状況

(1) 地域内フィーダー系統確保維持補助金

- ・ 令和 6 年度事業 (R5. 10. 1~R6. 9. 30) 計画認定済み、交付申請済 (審査中)
- ・ 令和 7 年度事業 (R6. 10. 1~R7. 9. 30) 計画認定済み

(2) 地域旅客運送サービス継続実施計画 計画認定済み

- ・ 対象 小学校系統、南高麗地区行政センター系統
- ・ 期間 令和 5 年 9 月 1 日~令和 9 年 3 月 31 日

4 その他の取組

(1) 実績や意見を基に運行内容を変更

利用状況や乗込調査の結果及び利用者や地域の方からの意見を踏まえ、令和 6 年 10 月 1 日から運行内容を見直し、時刻の変更を行った。

(2) GTFS データリポジトリヘデータの登録・公開

前年に引き続き GTFS データを公開したことで、新たな路線検索サイトに時刻表等が掲載され、市のホームページ以外でも経路や時刻の検索が可能となった。

(3) 車両への広告掲載制度の創設

運賃以外の収入源確保のため、広告掲載制度を創設し、乗合ワゴン車両に広告ラッピングをした。

▽広告ラッピングをした乗合ワゴン



(4) 空白時間を補完する移送サービスの運行

運行地域内の医療法人と連携し、週 1 回 2 便の移送サービスの実証運行を継続実施している。乗合ワゴンの空白時間に地区内と市街地方面をつなぐことで移動しやすい環境整備をしている。

△医療法人による移送サービス(無料)

5 今後の課題

- (1) 車両への広告掲載による収入源の確保
- (2) 利用者数の確保
- (3) 運行環境の整備 (乗換環境、待合環境など)